

豚熱防疫作業が完了

群馬建協 桐生支部全23社で対応



重機の洗浄（26日撮影）

群馬県建設業協会（青柳剛会長）が桐生市内の養豚場で進めてきた豚熱（CSF）防疫作業が26日に完了した。桐生支部（大川弘志支部長）の全23社延べ338人が従事した防疫作業は、7日から1日の休工日を挟

み、19日間に及んだ。

7日に県東部農業事務所長から建協桐生支部長に、県農政部長から建協会長に防疫作業の協力が依頼あり、支部と建協がそれぞれ対策本部を設置し、作業を開始した。

猛暑で臭気が立ち込める中、熱中症対策や大雨による作業の中断、群馬県への新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言などを経て、21日に殺処分豚、飼料堆肥、防護服、ごみなど計2219袋の埋却溝への投入が完了した。22日の休工日を挟み、23日からの埋却溝の覆土、石灰散布、雨水排水溝の掘削、敷き鉄板など使用機材の消毒・搬出を経て、26日午後3時35分に防

疫作業の全工程が終了した。同日午後4時14分には、山本一太県知事から青柳会長に感謝の電話があった。

青柳会長は「熱中症対策を講じながらの過酷な作業だったが、無事に終わって安心していい。県による建設業対象の感染症ワクチンの優先接種後で、万全の備えで作業ができた」とコメントしている。

桐生支部全会員企業23社は次のとおり。
▽大川建設▽山藤組▽貴船工業▽新井土木▽桐生建設▽坂本建設▽北村土木▽坂田興業▽島田組▽平澤建設▽三興エンジニアリング▽塚本建設▽サン建設▽中部総合開発▽モロ才力建設▽阿左美建設工業▽野村建設工業▽吉田組▽相羽通建▽日生土木▽梶山土木▽金子建設▽寺田建設工業。

群馬県建設業協会（青柳剛会長）は、桐生市で発生した豚熱（CSF）の防疫作業を26日に終えた。県から要請を受け、埋却溝の掘削や殺処分された豚の搬送、消毒などを7日から行ってきた。延べ115社、338人が作業に従事。桐生支部（大川弘志支部長）は全会員23社が出動した。豚熱の防疫は2020年9月の高崎市、4月の前橋市に続いて3例目。防疫業務や特定家畜伝染病の埋却処分に関する協定に基づく要請を県から受け、出動した。作業中には、警報級の大雨に見舞われ、

桐生市の豚熱防疫作業完了

26日の撤収作業（群馬建協提供）



県には感染症の緊急事態宣言が発令されることになった。休工日を除く19日間にわたる

群馬建協 ワクチン接種で現場に安心感

作業を26日午後3時35分に終えた。

県は建設業をエッセンシャルワーカーと独自に認め、新型コロナウイルスワクチンの優先接種の対象にした。防疫作業には2回目の接種を終えた会員企業の技術者や作業員が参加し、群馬建協の首脳は「きつい臭気があり肉体的にも精神的にも負担が大きかったが、（ワクチン接種で）感染症に対する安心感が現場にあった」という。青柳会長には26日に山本一太知事から防疫作業への協力に関する謝意が伝えられた。